

エッセイ Essay



言葉の壁を 乗り越えて

主婦

加藤 パッチャリン

「サワディ・カー」これはタイ語で「こんにちは」の意味です。サワディの後に「カー」は女性、「クラブ」を付けると男性の言葉になります。便利なことに朝昼晩これ一つで「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」となります。申し遅れましたが、私はタイ人で、チョンブリー県出身です。日本へはタイの会社の工場が豊橋にあり、その研修生として17年前に来ました。今では笑い話ですが、空港から工場に行く途中で、街路樹の葉が落ちているのを見て、私は「木が死んでいる」と思いました。後から聞いた話ですが、寒くなると木は自身の身を守るために葉を落とし、春になると若葉が出てくるのです。タイは一年中暑く、葉が落ちることは木が枯れることを意味します。日本に来て、見たり聞いたりした体験は驚きの連続でした。

私の田舎は日本の昔のようだと夫は言います。結婚式やお葬式は近所の人達が集まって、食事の用意などいろいろ手伝い、三日三晩行きます。その子供達も集まって来ます。私のタイの実家は水道、ガス、電話線がありません。水は雨水を瓶に溜めて使っています。電話は携帯電話です。電波の状態はあまりよくありません。電気だけは通っています。私は小学校が遠く、毎日10キロの道のりを歩いて通いました。タイの田舎では日本では信じられないかもしれませんが、中学校に通いたくても家が貧しくて畑や家の手伝いのために通えない子供達があります。そんな子供達がいることを心のどこかに留めていただけると嬉しいのです。

さて、結婚当初、夫の父親から毎日夕方になると電話がかかってきました。「大丈夫ですか?」と私を気づかせてくれたのです。また、子どもが幼稚園の頃、同じ園のお母さんたちが一人である私に優しく声をかけてくださり、それから挨拶をするようになりました。その頃言葉は十分理解できませんでしたが、ここでも日本人の他を思いやる心に触れ、嬉しくなりました。おかげで私は運動会や文化祭などの学校行事に参加することがとても楽しくなりました。

子育てで苦労したことはやはり子供が病気になっ

た時です。上の息子が1歳の時、夜に急に熱を出し、その時夫は夜勤で、頼れる人が近くに誰もいなく、日本語もよくわからない私はどうしたらよいのかパニックになりました。おろおろして夫に電話し、医療センターにタクシーで行きました。しかし、タイ語を話せる人がいなくて、先生のおっしゃることもわからず、不安でたまりませんでした。先生に手紙を書いてもらい、次の日一般の病院に行きましたが、タイ語がわかる人がいなくて、ここでもとても困りました。息子の病気について話してくださるのに理解できないのは悲しかったです。この状況は子供たちのためにも良くないことだと思い、私は国際交流協会の日本語教室に通い始めました。熱心な先生のおかげで今では生活に困らない程度になりました。今は漢字を勉強しています。学校から出される案内や手紙を夫に読んでももらわなくてもいいように私自身で読めるようになりたいと思っています。

長男が高校生、次男が中学生となった今、子供が成長するのは早いものだと感じます。日々学校から帰ってきたら、宿題をやらずに遊んでいる息子たちについて怒ってしまいます。成長するのが嬉しい反面、ちょっと寂しくなります。子供達も手が離れたのもっと日本語を勉強して、通訳の仕事ができるように頑張りたいと思います。

豊橋はいろいろな施設があり、山も川も海も近く、とても子育てに良い所だと思います。今年も豊橋まつり総踊りに日本語教室のメンバーとともに男性ははっぴ、女性は浴衣を着て参加しました。このように豊橋は日本の伝統文化を見て聞いて感じることもできる良い所です。

